

保護者による評価

A環境面

施設のある建物の構造上仕方ないが、バリアフリー化が進められるといい。

B児童への支援内容

様々な支援をしてくれるのは有り難い。祝日等のイベントも毎回色々と工夫してくれていると感じる。

C事業所からの情報発信

教室で行った工作の様子などを定期的に知らせてくれるので様子が分かって良い。

D非常対応

子どもの話では避難訓練をしているようだが、あまり伝わってこない。

事業所による自己評価

A環境面

活動するスペースはある程度取れている。バリアフリーについても足りない所がある

B児童への支援内容

利用者それぞれにあった支援プログラムを考えるよう工夫している。

C関係機関との連携

送迎時、学校や保護者と会話することで情報共有・意思疎通などが出来ているのではないかと感じている。

D保護者への説明責任・信頼関係

新規利用者の保護者との間ではまだ信頼関係が築き上げられていないように思われる。

児発菅が新しくなり、話しやすい

E非常対応

定期的に避難訓練を実施し、非常時に備えている。

事業所内での分析

【共通点】バリアフリー問題・支援内容については互いに納得できるものが出来ているとみられる

【相違点】避難訓練等、教室で実施しているものの活動内容が伝わっていない部分もある。

【分析】・支援内容は保護者にも評価いただいている。送迎を行っているため、関係機関と交流する機会を持てる。祝日のイベントを楽しみにしている利用者が多い。ただし環境面について。特に、建物の2階に施設があるため全ての方が訪問しやすい場所ではない。

事業所の改善への取り組み

- ・今ある療育を充実させるために、保護者と面談し何を必要としているかニーズを捉えるとともに、事業所内で今以上にミーティングを行い、利用者一人ひとりのプログラムを考えていく。
- ・活動内容等を知っていただくために紙面だけでなく、直接お話できる機会があればその都度お知らせする。